

6 防除対策推進上の問題点及びその対策

| 農作物名 | 病害虫名 | 問題点 | 対策 |
|-------|--|--|--|
| 水 稲 | いもち病 | <ul style="list-style-type: none"> ・長期残効性の箱処理剤が普及したため、本田期防除に対する意欲が低下している。 ・防除時期が遅れ、感染好適条件が続くと発生が増加することがある。 ・耐病性が弱い品種の作付増加 | <ul style="list-style-type: none"> ・的確な発生状況の把握と発生初期の防除 ・BLASTAMの感染好適日データを活用した発生予測と防除指導 ・常発地では粒剤による予防防除の実施 ・品種の特性に応じた栽培管理と防除 |
| | ヒヨウカ | <ul style="list-style-type: none"> ・生息密度の圃場間差が大きく、また株元に寄生するため、生息密度の把握に労力を要する。 ・長期残効性の箱処理剤が普及したため、本田期防除に対する意欲が低下し、適期防除が行われにくい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・圃場毎の生息密度の把握と発生初期の防除 ・適期（幼虫のふ化前期）防除 |
| | コブノミガ | <ul style="list-style-type: none"> ・被害葉が目立つことや被害量、増殖量の予測が出来ないため、過剰に防除する傾向にある。 ・飛来時期、地域により、発生時期や増殖量が異なる。 ・ウンカ類に対する長期残効性の箱処理剤が普及したため、ウンカ類飛来時の薬剤散布回数数が減少して、本虫に対する防除圧も低下している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・被害量、増殖量の予測法の確立と要防除水準の設定 ・地域における発生予察体制の確立 ・適期（幼虫のふ化前期）防除 |
| | 斑点米カミシ類 | <ul style="list-style-type: none"> ・休耕田や畦畔の雑草で増殖し、そこから飛来し加害するため、発生量の把握が困難である。 ・薬剤の残効が短く、防除効果が上がりにくい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・雑草地上における発生状況の把握 ・フェロモン剤等による簡易な発生予察法の確立 ・増殖源となる休耕田や畦畔の除草及び薬剤散布 ・長期残効性薬剤の開発、登録 |
| | スミリンゴガイ | <ul style="list-style-type: none"> ・用水路における有効な防除手段がない。 ・大雨時に浸冠水する地域が多く、用水路から本田へ大量の貝が侵入する。 ・湛水が出来ない圃場では、薬剤の本田施用が困難である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・用水路における防除法の確立 ・用水路からの侵入防止柵（網）の設置 ・浸冠水地域の圃場整備 ・効果の高い薬剤の開発、登録 ・天敵、微生物等による生物的防除法の確立 |
| 大 豆 | ハシロヨトウ | <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除を行わないと、その後増殖して防除が困難となる。 ・幼虫の齢が進むと薬剤の防除効果が低下する。 ・茎葉が繁茂すると薬剤が虫体にかかりにくく、防除効果が上がらない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・的確な発生状況の把握と発生初期の防除 ・適期（若齢幼虫期）防除の徹底 ・効果の高い薬剤の開発、登録 ・天敵、微生物等による生物的防除法の確立 |
| ばれいしょ | 疫 病 | <ul style="list-style-type: none"> ・初期防除の遅れや防除不徹底（散布量の不足等）による多発。 ・好適条件下では発生後の進展が極めて速い。 ・フェニルアミド系剤に対する耐性菌の出現 | <ul style="list-style-type: none"> ・適期防除と適正量散布 ・薬剤の輪番使用 ・粉剤並びに無人ヘリの利用など簡便かつ有効な防除法の確立 ・薬剤感受性検定の実施と検定結果に基づいた有効薬剤の使用 |
| | Yザ' 傷病 | <ul style="list-style-type: none"> ・近年の発生増加で広域的に罹病種いもが増加。 ・種いも更新の不徹底。 ・アブラムシ類の防除不徹底。 ・野良生え等の圃場管理の不徹底。 ・現在の主要品種（ニシユタカ、デジマ）での病徴等の発生様相や病原ウイルス（PVY）の系統（普通系統、タバコえそ系統、塊茎えそ系統）等の性状に不明な点が多く、本病の早期発見や防除対策が困難である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・種いも更新の徹底（地域的・広域的） ・アブラムシ類防除の徹底（地域的・広域的） ・発病株の早期抜き取り処分 ・アブラムシ類の薬剤感受性検定の実施と検定結果に基づいた有効薬剤の使用 ・主要な品種及び作型での発生様相並びに病原ウイルスの性状の解明 |
| かんきつ | ウイルス病 温州萎縮病 STEM Pitting 病 接木部異常病 ウイルス病 (エカコーテイス) | <ul style="list-style-type: none"> ・発病までに年数を要するため、早期発見が難しい。 ・保毒した苗や穂木が流通している ・病気に対する農家の意識が低い。 ・簡易で迅速な保毒検定法がない。特にウイロイド病は手間と時間を要する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・無毒苗・穂木の使用 ・発病樹の伐採、抜根 ・はさみ等の消毒の徹底 ・農家の意識啓蒙 ・無毒母樹の増殖、配布の迅速化 ・ウイロイド病の簡易検定法の確立 |
| | ミカンガニ | <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤抵抗性の程度並びに発達する速度が、地域や圃場によって異なるため、薬剤の選定が難しい。 ・施設栽培では、乳剤を使用すると葉害が発生する恐れがあり、使用出来る薬剤に限られるため、感受性の低下する速度が速い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・マシン油乳剤の散布 ・発生初期の防除を徹底する。 ・薬剤感受性検定で有効な薬剤の散布 ・簡易な薬剤感受性検定法の確立 ・天敵等の生物的防除法の開発 |

| 農作物名 | 病害虫名 | 問 題 点 | 対 策 |
|--|----------|--|---|
| かんきつ | アブラムシ類 | <ul style="list-style-type: none"> ワタアブラムシの合成ピレスロイド剤及び有機リン剤に対する薬剤感受性が低下している。 地域や圃場によって薬剤感受性が異なるため、薬剤の選定が難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 同一系統薬剤の連続使用を避け、輪番使用とする。 発生初期の防除を徹底する。 有効な薬剤の開発と登録 |
| | ミカンイロサシマ | <ul style="list-style-type: none"> 薬剤感受性が低く、効果の高い薬剤が少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> 効果の高い薬剤の開発と登録 施設内部及び周辺の除草 |
| かんきつなし | カメムシ類 | <ul style="list-style-type: none"> 生態について不明な点が多く、飛来及び加害の有無やその時期について、予測が困難である。 移動性が高いため薬剤散布のタイミングが難しく、また薬剤の残効が短く、十分な防除効果が得られない。 合成ピレスロイド剤の使用回数が増えるとミカンハダニの多発生をまねく。 | <ul style="list-style-type: none"> カメムシ類の生態の解明 飛来予測技術の開発 フェロモン剤利用等による簡易的確な発生予察法の確立 効果が高く残効の長い薬剤の開発 天敵や微生物等を利用した生物的防除法の開発 フェロモン剤等を利用した防除法や忌避灯等の物理的防除法の開発及び確立 |
| びわ | 灰斑病 | <ul style="list-style-type: none"> 効果の高い薬剤が少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> 効果の高い薬剤の開発と登録 |
| | 褐斑病 | <ul style="list-style-type: none"> 登録薬剤がない。 | <ul style="list-style-type: none"> 他病害との同時防除 効果の高い薬剤の開発と登録 |
| びわなし | 白紋羽病 | <ul style="list-style-type: none"> 立毛中の防除が難しく、現行の防除法では労力がかかり効果が十分でない。 効果の高い防除法と効果の高い薬剤がない。 | <ul style="list-style-type: none"> 立毛中の簡易な防除法の確立 植付前の土壌消毒 効果の高い薬剤の開発と登録 |
| 茶 | 赤焼病 | <ul style="list-style-type: none"> 発生生態が不明で、防除適期も明らかでない。 効果の高い薬剤がない。 | <ul style="list-style-type: none"> 発生生態の解明 耕種的防除技術の確立 効果の高い薬剤の開発と登録 |
| | カサネガラムシ | <ul style="list-style-type: none"> 樹冠内部の枝幹に寄生するため、発生の早期発見が難しく、散布薬剤が到達しにくい。防除が困難である。 | <ul style="list-style-type: none"> ふ化時期の的確な確認と迅速な伝達 天敵や微生物利用による生物的防除法等の有効的な防除法の確立 |
| いちご | 炭疽病 | <ul style="list-style-type: none"> 罹病性品種の栽培。 潜在感染株を親株床、本圃に定植。 潜在感染株の判別が困難である。 汚染圃場（親株・育苗床）の運用。 耕種的防除（雨除け、全面マルチ等）の不徹底。 | <ul style="list-style-type: none"> 抵抗性品種の育成。 潜在感染株の簡易検定方法の開発。 育苗初期からの耕種的・化学的防除の徹底。 親株・育苗床の更新又は土壌消毒の徹底。 有効薬剤の開発と登録。 |
| | ハスモンヨトウ | <ul style="list-style-type: none"> 有効な薬剤が少ない。 開花交配期の液剤散布は奇形果を生じる。また、受粉用のミツバチに影響のない薬剤が少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> フェロモントラップ利用による薬剤防除適期（若齢期）の把握 他害虫との同時防除 開花期前の徹底防除 ミツバチに影響のない有効薬剤の開発と登録 |
| アスパラガス | スリップス類 | <ul style="list-style-type: none"> 登録薬剤がない。 | <ul style="list-style-type: none"> 他害虫との同時防除 有効薬剤の開発と登録 耕種的及び物理的防除技術の確立 |
| ばれいしょ アスパラガス ねぎ カーネーション にんじん | シイロアザミ | <ul style="list-style-type: none"> 薬剤感受性が低く、有効な登録薬剤が少ない。 薬剤がかかりにくいところに生息して食害するので、薬剤の効果が上がりにくい。 傾斜地が多いため、露地栽培でのフェロモン剤による密度抑制（交信攪乱）効果が上がりにくく、導入が難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 他害虫との同時防除 有効薬剤の開発と登録 施設栽培での防虫網による耕種的防除法、フェロモン剤による密度抑制、青色蛍光灯によるトラップ、薬剤防除法等を組み合わせた総合防除 |
| いちご 花き類 (カーネーション 他) | タバコガ類 | <ul style="list-style-type: none"> 有効な登録薬剤がない。 花蕾の内部など薬剤がかかりにくいところに生息して食害するので、薬剤の効果が上がりにくい 発生生態が十分に解明されていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 他害虫との同時防除 有効薬剤の開発と登録 発生生態の解明 耕種的、物理的及び生物的防除法の確立 |
| きく ガーベラ トマト なす | マハモグリバエ | <ul style="list-style-type: none"> 登録薬剤が少ない。 苗での寄生の発見が難しく、寄生苗の移動により発生地域が拡大。 ナスやトマトなど出荷物に直接大きな被害を及ぼさない作物における防除の目安がない。 | <ul style="list-style-type: none"> 他害虫との同時防除 被害葉の除去や収穫後の被害残渣の徹底処理 育苗時の徹底防除 防虫網の設置や黄色粘着トラップ（ITシート）による防除等、耕種的並びに物理的防除技術 要防除水準の設定 |

| 農作物名 | 病害虫名 | 問題点 | 対策 |
|---|------------------|---|---|
| いちご きゅうり きく ガーベラ トコギキョウ ばら | ミカンキロアザミ ウマ | <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤感受性が低く、有効な薬剤が少ない。 ・他のアザミウマ類との肉眼判別が難しく、薬剤の選定等適切な防除が困難である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・有効薬剤の開発及び登録 |
| トマト トコギキョウ | 黄化葉巻病 葉巻病（仮称） | <ul style="list-style-type: none"> ・病原ウイルス（TYLCV）のトマト以外の作物（トコギキョウ）への感染拡大 ・発生生態に不明な点が多い（オシコナジミによる伝播、コジミの経卵伝染及び他作物での病徴等）。 ・媒介昆虫であるシバ-リ-コナジミの防除が困難である ・簡易な診断方法が無い。 ・育苗期に使用できる薬剤が少ない。 ・病株の抜き取り、コナジミ進入防止ネット設置の不徹底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・育苗期からの防除の徹底。 ・圃場内部及び周辺の除草の徹底。 ・農家以外（家庭菜園など）のトマト栽培者への意識啓蒙 ・簡易診断方法の開発。 ・有効薬剤の開発及び登録。 |